

健康社会研究センター ニューズレター 第40号

2015. 11. 17 発行

◆ 目次 ◆

- 1 最新のお知らせ
- 2 主な研究成果発表
- 3 研究費獲得のお知らせ
- 4 自治体共同研究会について
- 5 学会・シンポジウム・研究会等のお知らせ

健康社会研究センターはJAGES(日本老年学的評価研究)の事務局の1つとして、下記のような活動に取り組んできました。

1. 最新のお知らせ

○ 8月2日-4日に熱海でJAGES研究会が開催されました

JAGES 夏季研究会が熱海にて開催され、2泊3日に渡って熱い論議が繰り広げられました。

統計セミナーでは、篠崎智大先生(東京大学大学院・生物統計学)が「直接・間接効果の推定方法」についてお話くださり、様々なモデルの講義に熱心に質疑が行われました。また、通常の研究発表の他に多くの新規調査項目の提案もあり、全国の先生方と交流も深めながら、有意義な研究会となりました。



集合写真

○プレスリリース紹介;中出美代先生(東海学園大学)の研究が論文になりました

『男性の肥満による死亡リスクは低所得者で約2倍高くなる』

～肥満傾向にある男性では所得格差により、死亡リスクに差があり、低所得者で約2倍高いことが明らかに～
65歳以上の健常者14,930名を対象とした4年間の追跡調査によって、肥満傾向にある男性では所得の格差により死亡リスクに差があり、低所得者で約2倍高いことが明らかになりました。体格指数Body Mass Index(BMI)を用いて検討した結果、全体的には痩せにおいて死亡リスクが高いことが示されました。しかし、BMIが25以上の肥満傾向にある男性では、高所得者の死亡リスクはBMIが23.0～24.9の人々に比べて0.94倍であったのに対して低所得者では1.96倍と、所得による違いがみられました。このような違いは、痩せの人々や女性においてはみられませんでした。痩せへの低栄養対策などとともに所得などの社会経済的状態も考慮した施策の必要性が示唆されました。

詳しくはJAGESホームページをご覧ください (<http://www.jages.net/#/cl20>)

○英国で富裕層と貧困層間の平均余命が縮小: King's Fundからの報告

2015年8月11日に公表された英国King's Fundの報告書”Inequalities in life expectancy –Changes over time and implications for policy” (<http://www.kingsfund.org.uk/publications/inequalities-life-expectancy>)によると1999-2003年には、上位10%の富裕層と下位10%の貧困層間の平均余命の差は6.9年だったが、2006-2010年には4.4年と差が2.5年縮小した。この縮小が顕著にみられたのはかつて収入の剥奪(社会的な不利の)レベルが最も高かった地域であった。

背景要因として1990年代から2010年まで労働党政権下で保健省が健康の格差縮小のため地域、特に平均余命の低い地域をターゲットにして、その地域のNHS(国民保健サービス)をサポートし、糖尿病や高コレステロール血症に対する治療を推進してきたこと、平均余命に関わるとされるマクロレベルの要因として、例えば高齢者層の貧困の改善、失業率の抑制、住宅特に公的住宅の状況の改善も同時に見られ、これらが平均余命格差縮小の要因ではないかとされている。

2008年以降の経済危機に伴う景気の悪化やそれに対する政策が、富めるものと貧しい者の平均余命の差にどのような影響を与えたのか、今後見ていく必要があるとしている。

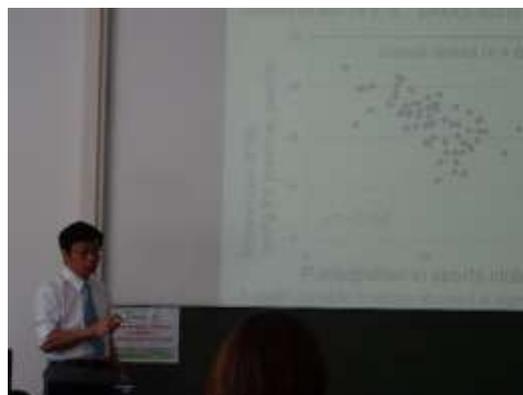
○近藤克則が、厚生労働省国際参与ならびに、地域包括ケア研究会の委員になりました

○近藤克則が、ドイツのシャリテ医科大学“公衆衛生サマーセミナー” でJAGESについて紹介しました

2015年8月24-27日にドイツ、ベルリンのシャリテ医科大学にて、シャリテ医科大学と千葉大学との合同公衆衛生学サマーセミナーが開催されました。

「健康の社会的決定要因」に関して講義を行い、その中でJAGESのプロジェクトや研究結果について紹介しました。

各国からの参加者は日本の高齢者の研究結果に興味深きき入っていました。



○JAGES Taketoyo studyの効果検証をした引地博之の論文がJECH(J Epidemiol Community Health)のEditor's choiceに選ばれました

J Epidemiol Community Health 2015;69:925-926 doi:10.1136/jech-2014-204806

(<http://jech.bmj.com/content/69/10/925.full#ref-2>)

Hikichi, H., et al. (2015). "Effect of a community intervention programme promoting social interactions on functional disability prevention for older adults: propensity score matching and instrumental variable analyses, JAGES Taketoyo study."

○週刊保健衛生ニュース第1827号に座談会の内容が掲載されました

介護予防事業の見直しを踏まえた新しい総合事業 ～住民とともに進める地域づくりにむけて～。

詳しい書誌情報は、本誌4ページにある<メディア掲載・その他>をご覧ください。

2. 主な研究成果発表

<論文等>

1. Kei Hayashi, Ichiro Kawachi, Tetsuya Ohira, Katsunori Kondo, Kokoro Shirai, Naoki Kondo. : Laughter and subjective health among community-dwelling older people in Japan: Cross sectional analysis of JAGES cohort data. J Nerv Ment Dis. (in press)
2. Tani Y, Sasaki Y, Haseda M, Kondo K, Kondo N. Eating alone and depression by cohabitation status among older women and men: The JAGES Longitudinal survey. *Age and Ageing* (in press)
3. Nakamura M, Ojima T, Nakade M, Ohtsuka R, Yamamoto T, Suzuki K, Kondo K.: Poor oral health and diet in relation to weight loss, stable underweight and obesity in community dwelling older adults: a cross-sectional study from the JAGES 2010 Project. J Epidemiol (in press)
4. Nakade M, Takagi D, Suzuki K, Aida J, Ojima T, Kondo K, et al. Influence of socioeconomic status on the association between body mass index and cause-specific mortality among older Japanese adults: The AGES Cohort Study. Prev Med. 2015;77:112-8.
5. Inaba, Y., et al. (2015). "Which part of community social capital is related to life satisfaction and self-rated health? A multilevel analysis based on a nationwide mail survey in Japan." Soc Sci Med 142: 169-182.
6. 細川陸也、伊藤美智予、近藤克則、尾島俊之、宮國康弘、後藤文枝、阿部吉晋、越千明:「健康交流の家」開設による健康増進効果の検証 社会医学研究. 33(1), 2016 (印刷中)
7. 伊藤美智予、汲田千賀子、中村裕子、山口喜樹、加知輝彦(2015) 認知症介護指導者を対象とした「研究活動継続支援プログラム」の開発と評価—認知症介護研究・研修大府センターでの試み『日本認知症ケア学会誌』14(2)519-530.
8. 佐々木由理、宮國康弘、谷友香子、長嶺由衣子、辻大士、斎藤民、垣本和宏、近藤克則:高齢者うつ地域診断指標としての社会的サポートの可能性—2013年日本老年学的評価研究(Japan Gerontological Evaluation Study:JAGES)より—。老年精神医学雑誌(印刷中)(査読有)
9. 鄭丞媛・井上祐介・趙恩暎・斎藤民:韓国における認知症対策および家族介護者支援の取り組みの現状と課題. 海外社会保障, 192:46-51, 2015
10. 加藤清人・近藤克則・竹田徳則・鄭丞媛:手段の日常生活活動低下者割合の市町村格差は存在するのか—JAGESプロジェクト—. 作業療法, 34:541-554, 2015.

<学会発表>

1. 井上祐介・鄭丞媛・国井由生子・村田千代栄・斎藤民. 全国自治体における家族介護者支援事業の実態(第1報)第74回日本公衆衛生学会, 2015.11.4-6
2. 斎藤民・井上祐介・鄭丞媛, 国井由生子・村田千代栄. 全国自治体における家族介護者支援事業の実態(第2報)第74回日本公衆衛生学会, 2015.11.4-6
3. 鄭丞媛・井上祐介・近藤克則・宮國康弘. 物忘れとソーシャル・キャピタル関連指標との相関—JAGESプロジェクト. 第74回日本公衆衛生学会, 2015.11.4-6
4. 尾島俊之・竹田徳則・鄭丞媛・村田千代栄・岡田栄作・中村美詠子・斎藤雅茂・相田潤・近藤尚己・近藤克則. 認知症になりにくい地域特性に関する研究. 第74回日本公衆衛生学会, 2015.11.4-6
5. 竹田徳則, 平井寛, 近藤克則, 村田千代栄, 尾島俊之:調査票を用いた地域在住高齢者の「認知症を伴う要介護認定発生」のリスク因子とスコア化: AGES10年間のコホート研究. 第5回日本認知症予防学会学術集会, 抄録集:1B-13, 神戸, 2015.9.25-27
6. 辻大士, 近藤克則, 相田潤, 引地博之, カワチイチロー:東日本大震災前後の高齢者の運動習慣、運動グループへの参加状況の変化. 第70回日本体力医学会大会, 予稿集: pp.254(口頭発表), 和歌山, 2015.9.18-20
7. 稲葉陽二・和田有里・市田行信: コミュニティレベルの社会関係資本と生活満足度・主観的健康. 日本行動計量学会第43回全国大会, 首都大学東京南大沢キャンパス, 2015.9.4
8. 小平英志, 杉浦祐子, 笹川修, 中村信次, 近藤克則, 倉掛崇, 田倉さやか, 山崎喜比古: GPAと取得単位数には学生の何が反映されているのか?—大学コミットメント、自律的動機づけ、メンタルヘルス指標を手がかりに—. 日本青年心理学会, 名古屋大学, 2014.11.2-3
9. 山崎喜比古, 近藤克則, 中村信次, 小平英志, 倉掛崇, 笹川修, 吉井清子: 教育の質保証・向上のためのIRを活用した学生像の把握と学生支援策の探究. 高等教育質保証学会, 京都大学, 2013.8.24-25

<講演>

1. 鈴木佳代: 超高齢社会における健康・いきがい推進のまちづくり: 大規模社会疫学調査データと高齢者サロンの分析から。政策科学研究所講演会, 愛知学院大学政策科学研究所, 2015.10.28
2. 近藤克則: 保健医療における社会的サポートのエビデンス。千葉看護学会 第21回学術集会 基調講演, 講演集: p.18, 千葉大学大学院看護研究科, 2015.9.12
3. Katsunori Kondo: Summer School 2015 <Multidisciplinary Perspectives on Global and Public Health> “Social Determinants of Health” CHARITÉ Berlin school of public Health, Berlin, Germany, 2015.8.26
4. 近藤克則: 健康格差と向き合う ～期待される公衆衛生看護の力～。公益社団法人長野県看護協会保健師職能研修会, 2015.8.22
5. 鈴木佳代: 武豊町憩いのサロンにおける介護予防効果 みんなでワイワイ、元気なまちづくり。武豊町定例民生委員児童委員協議会講話, 武豊町思いやりセンター, 2015.8.21
6. 近藤克則: 医ゼミから社会疫学・政策研究へー私のポートフォリオ。第58回全国医学生ゼミナール in 千葉。(千葉大学西千葉キャンパス, 2015.8.15)
7. 近藤克則: 健康格差対策の7原則。大阪大学2015年公衆衛生セミナー: 日本における健康の社会的決定要因, 大阪大学吹田キャンパス, 2015.8.9
8. 芦田登代: 東日本大震災被災地における高齢者の選好と健康。第5回 CEE and RISS Seminar Series on Experimental Economics, 関西大学, 2015.7.31
9. 近藤克則: 健康格差の縮小を目指して ～『健康の社会的決定要因』と健康格差をめぐる動向～。第56回 日本社会医学会総会 特別講演, 抄録集: p.29-31, 久留米大学旭町キャンパス, 2015.7.25-26
10. 近藤克則: 地域診断と地域づくり～保健活動の原点回帰。茨城県市町村保健師連絡協議会 平成27年度専門部会, 茨城県開発公社ビル, 2015.07.16
11. 村田千代栄: ささえあい たすけあい まじりあいの町の先に見えるもの～住民参加の取り組みが健康で豊かな人生を作り出す～。刈谷市職員研修会, 刈谷市, 2015.7.10

<メディア掲載・その他>

1. 近藤克則, 江田佳子, 鶴田真也, 中越美渚, 柳尚夫: 【座談会】介護予防事業の見直しを踏まえた新しい総合事業 ～住民とともに進める地域づくりにむけて。(保健衛生ニュース 社会保険実務研究所, 9月28日発行, 1827, 2015)
2. 近藤克則・近藤尚己: 週刊朝日 7月31日号 「上流と下流で健康格差 一下流老人は死亡率3倍にー」の記事にコメントが掲載されました。(朝日新聞出版 120.31:140-143, 2015)
3. 近藤克則: 『社会と健康』健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ(川上憲人+橋本英樹+近藤尚己一編)についての近藤克則による書評が経済セミナーに掲載されました。(経済セミナー-685:132, 2015)
4. 齊藤雅茂: 「周囲の人はできるのに、自分は経済的事情からできない」という状況にある高齢者では、所得水準にかかわらず不健康な人が多い—という研究結果が紹介され、以下の地方紙に掲載されました。(共同通信配信)
 - ・ 山梨日日新聞(2015年6月1日): 「“貧しさ”多いと健康影響か 高齢者の生活様式調査」
 - ・ 岐阜新聞(2015年6月22日): 「貧困が影響の恐れ 高齢者の健康」
 - ・ 静岡新聞(2015年8月4日): 「生活様式の貧しさと健康 高齢者との関連調査」
5. 山本龍生: 朝日新聞および朝日新聞デジタル(2015年9月1日)
“元気な老後 歯のケアから”の特集で、「自分の歯が 20 本以上の人に比べ、19 本以下の人は要介護になるリスクが 1.21 倍高かった」等の研究内容が紹介されました。

3. 研究費獲得のお知らせ

1. 近藤克則: 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 Japan Agency for Medical Research and Development (AMED) 「長寿科学研究開発事業」(2015.10.15-2018.3.31)
課題名: 地域づくりによる介護予防を推進するための研究
2. 野口有紀: 科学研究費助成事業基盤研究(c)特設分野
課題番号: 15KT0097 (2015.7.10-2019.3.31)

課題名:健康寿命日本一静岡県で「お達者度」上位地域高齢者の健康要因に関する悉皆調査

3. 白井こころ: 公益財団法人 長寿科学振興財団,

長寿科学総合研究推進事業(国際共同研究事業) (2015.9.1-2016.3.31)

課題名: 日米英芬の高齢者の社会心理的背景と健康格差の国際比較研究

4. 自治体共同研究会について

8月21日 松本市との共同研究会が開催され、JAGES プロジェクトの紹介、福祉ひろば分析報告、今後の方向性を含めたディスカッションなどが行われました。

8月31日 武豊プロジェクト

8月31日 東海プロジェクト

9月4日 神戸プロジェクト

9月11日 名古屋プロジェクト

5. 学会・シンポジウム・研究会等のお知らせ

今後の予定

2015 11/26(木) ヴィッシュ先生講演(東大)

11/27(金) カワチ先生・ヴィッシュ先生参加の JAGES 研究会(東大)

12/5(土) JAGES 研究会(東大)

12/6(日) 3 時点パネルデータ解析に向けたワークショップ(東大)

2016 1/10 日(日) または 11 日(月) JAGES 研究会

2/11(木・祝) JAGEES 研究会

3/13(日) JAGES 研究会

ニューズレター第 40 号の発行にご協力いただきましてありがとうございました。

今後とも当センターへのご支援をよろしくお願い申し上げます。

メーリングリストの配信の停止をご希望の方・ご意見・お問い合わせ・情報提供はこちら<p-tanaka*n-fukushi.ac.jp
(田中)>までお知らせください(ご連絡の際は*を@に変更して下さい)。

ニューズレターのバックナンバーはこちら<[バックナンバー](#)>

発行元: 健康社会研究センター <http://cws.umin.jp/>

このメールは、国際シンポジウム「健康の社会的決定要因—社会疫学の可能性」(2009年3月14日開催)及び、『健康の社会的決定要因』を巡る国際的動向(2011年12月23日開催)、国際ワークショップ「社会疫学と老年学における国際共同研究の可能性」(2012年1月8日開催)にてメール登録をご希望いただいた方及びメーリングリスト web 登録をいただいた方に配信しています。